

NEWS

New hospital of East, West and South medical centers

vol.69 | 周産母子センター



Kuwana City Medical Center

2018年4月桑名東・西・南医療センターが1つになり新病院が誕生しました。

Take Free

特集

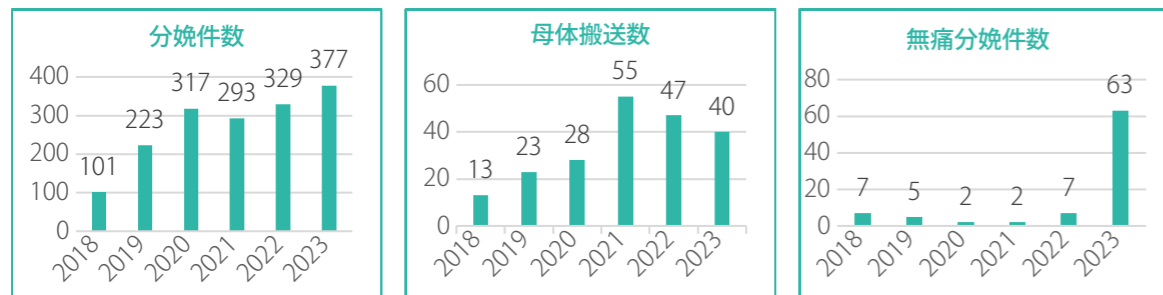
周産母子センター

地域周産期母子医療センターの始動に向けての取り組み
桑員地区のお母さんと赤ちゃんのために

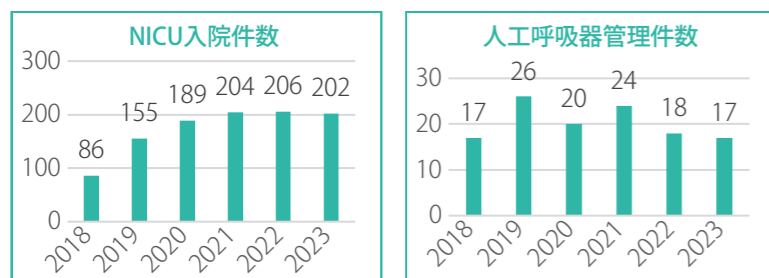
地域で産み・育てるための当センターの役割
桑員地区の周産期医療の要として

当センターに新生児特定集中治療室 (Neonatal Intensive Care Unit) (以下NICU) が設置される前(2015年)、この地域における大半のお産は県外で行われていました。2016年当センターにNICUが開設され、近隣の分娩取り扱い施設の減少やコロナ禍の影響もあり、お産が地域に留まるようになりました。これにより当センターの分娩件数も増加に転じています。

■桑名市総合医療センター年次推移



2022年のデータを見ると、三重県内の分娩数11,270件に対し、当センターでは329件(2.9%)のお産がありました。これらのお産をリスクに応じ、クリニックと病院が連携をして対応しています。特にハイリスクの妊娠・新生児の対応はこれまで県の指定を受けた周産期母子医療センター(市立四日市病院と県立総合医療センター)で行われていましたが、2018年新病院開院に併せ当センターでも積極的に受け入れています。



全国的に出生数は減少傾向にあります。桑員地区の分娩数は県内の他の二次医療圏と比べ比較的緩やかな状況にあります。一方、ハイリスク症例の増加もあるため、当周産母子医療センターの果たす役割は大きいと考えます。



NICU

2024年度から 地域周産期母子医療センターに認定されます！

現在、三重県では令和6年度以降の地域医療をどのような形で取り組んでいくかを検討する「第8次地域医療計画」の策定作業を行っています。その周産期部会において、当センターのこれまでの取り組みなどが評価され、2024年4月から「地域周産期母子医療センター」の認定を受けることが内定しました。

各都道府県では、地域の周産期医療体制を整備するにあたり、高度な医療とそれを担う人材育成を進めるための拠点となる周産期センターを指定します。条件は、産科・小児科(新生児科)を備え、周産期にかかる高度な医療行為(母体救命・ハイリスク妊娠、新生児集中治療)を24時間体制で担う医療機関となっており、三次医療圏ごとに「総合周産期母子医療センター」を設置しています。そのセンターをサポートする役割として「地域周産期母子医療センター」があります。センター間で連携しながら、多くのハイリスク症例の診療にあたることとなります。

当センターでは今後、地域周産期母子医療センターの指定を受け、産科病棟にMFICU (Maternal Fetal Intensive Care Unit;母体胎児集中治療室)の開設を目指します。MFICUの開設により、合併症妊娠や切迫早産、産科的合併症のある方や胎児異常を認める方に対し、人員を集中させ治療に当たることが可能になります。今後も桑員地区のお母さんと赤ちゃんの安全なお産のために、努めてまいります。

産科・小児科カンファレンスの様子



産科・小児科で週1回カンファレンスを行い、これから出産を迎える妊婦さんの経過や、新生児の治療経過を情報共有しています。出産前後の管理について切れ目のない支援を行うことによって生後の母子分離が極力少なくなるように配慮しています。

産婦人科の取り組みの紹介

TOPIC1

無痛分娩（分娩＝超絶痛いという考えはもう古い？）

無痛分娩とは背中からチューブを入れ、麻酔薬を注入することで陣痛の痛みを和らげながら分娩する方法です。国によって差はありますが、日本での無痛分娩数は8.6%（2020年）と希望される方が少ない状況でしたが、年々希望される方は増加しています。当センターでも妊婦さんの要望に応えるため、2023年4月からローリスクの方を対象に24時間365日対応することになりました。

これまで年間約7件であった無痛分娩は、2023年4月から12月までの8ヶ月間で63件と増加しており、全分娩数の16.7%となりました。無痛分娩では、痛みが一切なくなるため、分娩のいきみが弱くなることがあるので、当センターでは痛みを和らげる程度に麻酔を管理しています（極力痛みを取る処置はします）。今後もより「安全」に麻酔管理ができるよう、スタッフとの勉強会や学会への症例登録を通し、医療の質の維持に努めています。

麻酔を用いない自然経膣分娩も、無痛分娩も、医学的な適応があって帝王切開する方も全てが立派なお産であり、どれも妊婦さんが頑張ってお産した事実は変わりません。



TOPIC2

緊急輸血・止血シミュレーション ～大量出血にいち早く対応するために～

産後、大量出血を起こし、いち早く輸血や止血を行う事が必要な方がいます。他院からお母さんのみが救急車で運ばれてくる事があります。そうすると一分一秒でも早く対応する必要があります。対応が遅れると死亡することもあります。こうした場合に、重要なことは適切に止血し、輸血を迅速に行うことです。止血器具を入れる・手術を行う以外にも、放射線科協力のもと、子宮に栄養を送る血管をカテーテルを用いて人工的に塞ぐことで止血する子宮動脈塞栓術を実施することもあります。安全に迅速な輸血を投与する事ができるよう、定期的に院内でシミュレーションを行っています。



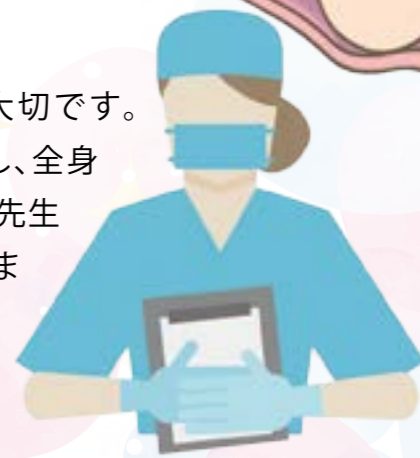
緊急輸血シミュレーションの様子

TOPIC3

コードA ～1分1秒でも早く赤ちゃんを娩出するために～

「コードA」は聞きなれない言葉かもしれませんが。患者の急変を表す「コードブルー」はドラマでもよく知られていますが、「コードA」は産婦人科が用いる緊急コールです。胎児または母体が危険な状態であり、帝王切開で1分1秒でも早く胎児を娩出する必要があることを意味しています。

帝王切開をするためには、麻酔科と手術室の協力が大切です。「コードA」が宣言されると、患者さんを手術室へ搬送し、全身麻酔を行った上で手術をし、赤ちゃんが出て、小児科の先生によって蘇生され…という一連の流れがスタートします。この流れをスムーズに行うためにはチームワークが重要です。いつでもすぐに対応できるよう、麻酔科や手術室、小児科のスタッフと日々訓練を行っています。



TOPIC4

グリーフケア

～妊娠を諦めなければならない方、死産を経験された方へ～

妊娠12週以降で妊娠を諦める、または死産のために胎児を娩出しなければならない場合、とても小さな赤ちゃんが生まれてきます。その時の喪失感は想像を絶します。市販のベビー服ではサイズが合わない、亡くなって生まれた赤ちゃんを忘れたくない、思い出を残したい…残された方には様々なお気持ちがあります。当センターではサポートグループ～グリサポくわな～から「おくるみ」を提供していただき、そのお気持ちに寄り添う活動を行っています。



「グリサポくわな」の取り組み

周産期における突然の死別。深い悲しみの中でも、ご家族にサイズの合ったかわいいベビー服を着たわが子の姿を心に焼きつけていただきたいと願い、小さいサイズのベビー服やお帽子などの製作をし、医療機関に無償提供していただいています。

TOPIC5

出生前診断

～生まれてくる赤ちゃんの治療が遅れないための準備～

出生前診断というと、難しい言葉に聞こえるかもしれませんが。胎児の超音波検査や血液検査を通して、赤ちゃんの異常を出産前に診断する検査です。

この検査で全ての異常がわかる訳ではありませんが、お腹の中で赤ちゃんの異常が分かれば、出生後すぐに治療が必要かどうか医学的に判断することができるため、事前に準備をすることができるようになります。また、ご両親の気持ちの整理をつけた上で分娩に臨む事ができます。当センターでは全ての方に超音波検査を実施し、異常があった場合には小児科医から出生後の様子をお話し、ご両親の不安を解消するための外来を実施しています。



TOPIC6

新生児蘇生法講習会：NCPR

胎児は出生に伴い、新生児として胎外生活に適した呼吸循環動態に劇的に切り替わっていきます。多くの出産は幸せに包まれた出来事ですが、出生時に蘇生処置が必要なお子さんもみられます。

新生児蘇生法のテキストの冒頭には「正常産児の85%は、出生後10-30秒内に呼吸を開始しますが、約10%が皮膚乾燥と刺激に反応して呼吸を開始します。約5%が気管挿管を含めた陽圧換気により自発呼吸が出現し、約2%が挿管、約0.1%が胸骨圧迫、約0.05%が人工呼吸と胸骨圧迫とともにアドレナリン投与を必要とします。」と書かれており、生まれるその時まで、誰もが危険と隣り合わせの状況にあります。



NCPR 講習会の様子



すべての分娩に新生児の蘇生を開始することができる要員が少なくともひとり、専任で立ち会ふべきである」という推奨を地域に普及するため、院内や一部地域の医療従事者を対象に、ILCOR consensus2020に準拠した日本版新生児蘇生法の講習会を開催しています。

TOPIC7

NICU から始めるリハビリテーション・発達支援

生後間もない新生児(特に早産児)は重力に抗して自由に運動することができません。何もしないで寝かせっきりにしていると、頭部や四肢の動きに制限が加わることもあります。適切な姿勢や体位は感覚運動を中心とした神経発達を促すためにとても大切です。

リハビリテーション室には、小児専門の理学療法士(PT)が在籍しており、毎日赤ちゃんの姿勢や抱き方・寝かせ方などを看護師とともに観察し、適切なポジショニングとなるよう介入しています。希望される方には、退院前のご両親に対し、新生児の体の扱い方(ハンドリング)について指導させていただいています。



新生児の
ポジショニングの
様子

TOPIC8

高次施設間搬送とバックトランスファー

赤ちゃんに重篤な疾患が見つかり、濃厚な集中治療が必要な場合や、外科治療が必要な場合、他の専門施設(三重大学病院等)と連携し、その後の治療を依頼しています。その場合、当センターから高次医療施設へ施設間搬送を行います。

しかし、搬送先の施設が遠方になると治療が終わり退院までの期間、毎日の面会がご家族の負担になります。病気の治療も大切ですが、退院後の育児を順調に進めるためには、授乳や沐浴などの基本的な育児手技の獲得など、ご両親と共に実施しておくべきケアもたくさんあります。当センターでは、高次施設で必要な治療が終了した時点で、先方と連携し、早期に当センターにバックトランスファー(後搬送)を受け入れています。それにより、自宅近くで退院までの期間を過ごし、育児ケアを習得していただくことができます。わが子と触れ合い、毎日少しずつ成長する赤ちゃんを見守る事がご両親と共にできる事を、私達スタッフにとっても喜びに感じています。



施設間搬送の様子

TOPIC9

周産期センターから連続した小児医療・在宅医療支援との連携

地域医療体制の整備や医療技術の進歩によって、多くの小さな命が助かるようになりました。日本の新生児死亡数は令和4年現在、出産1000に対し0.8と世界で最も低い国の一つとなっています。一方で、疾患の治療と共に何らかの医療的ケア(酸素吸入、経管栄養、人工呼吸など)を必要とするお子さんも増えています。当センターでは医療的ケア児の退院後の生活支援を積極的に担う必要があると考えています。

また、疾患で亡くなるお子さんが減少し、事故で亡くなるお子さんが減少した結果、最近の年齢階層別死亡原因の統計では、0歳、1-4歳ともに死亡原因の1位は「先天奇形・変形及び染色体異常」となっています。一人でも多くの乳幼児の死亡を減らすために、疾患を持ったお子さんのフォローアップ体制を充実させていく必要があります。

さらに、周産期に他施設で集中治療を受けたお子さんは、退院後の医療や在宅療養支援を遠方の主治医が行うことは容易ではありません。小児科では退院前からその施設と連携を進め、退院後の支援の輪に積極的に関与します。状況によってNICUや小児病棟にバックトランスファーを受け入れ、地域の多職種(訪問看護や母子保健、自立支援等)と連携を図り、小児病棟でのご家族への教育入院を含めた在宅導入を行っています。

桑名市子ども総合センター

ひとりで悩まず話してみませんか?

妊婦から出産、子育て中の全てのご家族を応援します!

母子保健係 (母子保健相談センター)

保健師、管理栄養士、助産師等が妊婦期から出産、子育ての相談や健康、予防接種などを通じ、家族の健康をともに考えます。育児や産乳食の相談などもお気軽にお問い合わせてください。

桑名市子ども総合センター

☎511-8601
桑名市中央南2丁目37番地
桑名市役所2階

〈利用できる日時〉
月曜日～金曜日
午前8時30分～午後5時
(土・日・祝日・年末年始除く)
〈相談方法〉
電話相談・来所(随時)相談

※面会希望の際は、必ずお電話ください。

家庭支援係

社会福祉士、臨床心理士などの職員が18歳までのお子さんに関する相談、DV被害など、家庭の相談をお受けします。

子ども発達・小児在宅支援室

お子さんの発達に関することや、療育手帳取得についてのご相談をお受けします。発達検査、発達が気になるお子さんの福祉サービスの利用申請を行います。※事前の申し込みが必須です。

桑名市子ども総合センター

- 母子保健係 ☎0594-24-1380
- 家庭支援係 ☎0594-24-1298
- 子ども発達・小児在宅支援室 ☎0594-24-3040 (福祉サービス：☎0594-24-1299)

桑名市は令和4年度から桑名市医療的ケア児レスパイト支援事業を開始しており、当センターも桑名市子ども総合センターと提携し退院後の家族支援の目的で、短期のレスパイト入院も実施しています。

With you 医療人



当センターでは、スタッフが安心して働けるよう職種・勤務形態に関係なく利用できるゆめっこ保育園を運営しています。

保育対象は、生後57日目から小学校就学前迄で、夜間保育も月7～8回行い夜勤業務がある看護師が利用しています。



「子ども一人ひとりの個性や発達を大切に笑顔があふれる保育をめざす」ことを保育理念とし、保育士14名、看護師1名で日々の保育を行っており、現在0歳児～5歳児までの園児60名が利用しています。

お誕生日会や避難訓練は毎月行い、年間行事の遠足や運動会ごっこ、夏祭り、ハロウィン、クリスマス会など、みんなで楽しんでいます。

令和5年4月から給食が開始されました！

温かいご飯やスープ、手作りおやつ等を美味しく頂いています。偏食のあった子どもたちも好き嫌いなく食べられるようになり、保護者の方からも大変喜ばれています。

日々の食育の大切さを実感しています。



0歳児（ひよこ組）

お天気の良い日は戸外へ出て外気浴を楽しんだり、室内ではセンサー遊び（五感を刺激する遊び）や、ふれあい遊びを楽しんでいます。子供たちが元気一杯大きくなるようにと願いを込めて楽しく過ごせる毎日としています。



1歳児（うさぎ組）

園庭や散歩に出かけ広々とした空間の下のびのびと遊んでいます。1歳児は様々な事に興味を示し「自分で」という気持ちや出来ることも増えてきます。一人ひとりの個性を大切に、みんなで成長していきたいと思ひます。個性と笑顔が輝けるようなクラスを目指しています。



2歳児（パンダ組）

お絵かきや粘土遊び、糊付けなど指先を使った遊びを取り入れています。難しい事や苦手な事にチャレンジできるように見守り、出来たときには誉めて子どもと共に喜ぶようにしています。その中で、考える力、協力する楽しさ、諦めないで頑張った時の達成感を感じることができるよう、出来るだけ子供たちの気持ち寄り添い、多くの体験や経験を積めるよう計画しています。

3,4,5歳児（くま組）

幼稚園児が利用しています。幼稚園が休みになる春休み・夏休み・冬休みには一段と賑やかな園になります。

子どもの想像力を尊重し、何事にもチャレンジして頑張れるよう応援しています。また、友だちと関わる楽しさが経験できるよう、お店屋さんごっこやルールのある遊びを取り入れ、協力して仲良く過ごせるように見守っています。

日々私達は、ゆったりとした環境の中で子どもたちがすくすく元気に過ごせるように努めています。

また、保護者の皆さんとのコミュニケーションを大切にして、子どもたちの成長を共に喜びたいと願っています。



脂肪肝

とメタボリック症候群

皆さんは「脂肪肝」に対してどのようなイメージを持たれているでしょうか。診察室で「脂肪肝です」と説明すると、多くの方は「悪い病気ではなくて良かった」「ダイエットを頑張ります」などと言って帰られます。

では脂肪肝は本当に怖くない病気なのでしょうか？

今回は脂肪肝が実は怖い病気であるということを書いてみます。



消化器内科
中川直樹 医師

お酒を飲まない方の脂肪肝の原因は？

脂肪肝の原因には大きく分けてアルコールとメタボリック症候群によるものがあります。お酒を飲まない方に発症する脂肪肝を代謝機能障害関連脂肪性肝疾患(MASLD:マッスルディ)と呼んでいます。このMASLDが進行した状態を代謝機能障害関連脂肪肝炎(MASH:マッシュ)といいます。この代謝機能障害が「メタボリック症候群」になります。これまで脂肪肝は良性と考えられていましたが、MASLDの中には肝硬変や肝臓がんを発症する因子となることがわかってきました。更にMASHではその頻度がより高いこともわかっています。



脂肪肝は肝臓以外にも注意が必要

MASLDやMASHは肝臓の事だけに注意していたら良いのでしょうか？

答えは“No”です。MASLDはメタボリック症候群の肝臓での表現型と考えられています。つまりMASLDの方は肥満や糖尿病を有しているメタボリック症候群の方と同様のリスクがあります。MASLDは健常者と比較すると肝関連合併症のみならず、全死亡率が増加し、更にMASHに進行するとその傾向が強くなることがわかってきました。心筋梗塞や狭心症、脳卒中の発生率は健常者の1.45倍で、MASHでは2.5倍に上昇するとの報告があります。発癌率では健常者と比較しMASLDでは肝臓癌が16.7倍、大腸癌が2倍、乳癌が1.9倍高いと報告されています。

MASLDやMASHの治療

メタボリック症候群を合併している頻度が高くその対策が最も大切です。特に肥満があれば食事運動療法で体重を減らすことが有効です。さらに合併している糖尿病や脂質異常症に対する薬剤がMASLDやMASHにも有効である場合もあります。しかし現在でも完治がするような特効薬は存在しません。日ごろから規則正しい食生活を心掛けメタボリック症候群の予防することが最も重要です。

Pick UP

主な取り組み

看護師研修

看護部では、一人ひとりの看護師が自己実現をめざし、専門職として自立し、主体的に活動できることを目的に教育プログラムを企画しています。



2022年4月より臨床ラダーを導入しました

新人看護師教育は、厚生労働省「新人看護職員ガイドライン」に沿って行っています。当センターの新人看護職員だけではなく、2023年度は5施設、11研修、22名の新人看護職員の教育を受け入れることが出来ました。



臨床ラダーとは

「看護師の評価システム」のことです。

当センターは習熟5段階+「新人」を含んだ6段階に設定しています。

研修の一部に、終末期の看護(エンゼルケア)があります。

エンゼルケアとは、逝去された患者さんご本人にかわってご本人が望まれるであろうセルフケアを尊厳を厳守し、少しでも綺麗に見えるよう行うことです。

目的は以下の3つ

- 医療行為による侵襲や病状などによって失われた生前の面影を可能な範囲で取り戻し、自然で安らかな姿に整えること
- ご遺体を清潔にし、細菌の繁殖や悪臭の発生を抑えること
- 遺された家族のグリーフワーク(悲観回復)を支援すること

エンゼルケアの手順は

1. 口腔ケア
2. 洗髪
3. 全身清拭・陰部洗浄
4. 整髪
5. 化粧

エンゼルケアは、その方らしさを大切にした退院の身支度であり、看護師が患者さんに最後にしてあげられるケアになります。ご家族が、最後に患者さんにしてあげたいこと、最後に着せてあげたい衣服など家族の希望を最優先に考え、服やメイクなどは、家族の要望にできるだけ応えるようにしています。



**院内保育園の運動会が
開催されました。**

10月12日

当日は天気もよく、体操や玉入れ、綱引きなど、楽しそうに取り組む園児たちの姿がみられました。



DMATが出動しました。

能登半島地震の被災地へDMAT(災害派遣医療チーム)を派遣しました。

- 令和6年1月 2日 第一次隊 出動
- 令和6年1月14日 第二次隊 出動
- 令和6年1月26日 第三次隊 出動



**第1回患者さんのための美味しい
病院食コンテスト(日本臨床栄養代謝学会主催)
に挑戦しました。**

栄養管理室・栄養サポートチーム・日本ゼネラルフード株式会社の共同チームで地産地消をテーマとした「食欲そそる特製カレー」に挑みました。



●メニューのポイント

「牛・豚東西分かれ目の特製桑名カレー」は桑名・員弁産の米や名物のあさりしぐれ、特産の桜ポークを使用しています。サラダは長島の水耕栽培で作られた野菜を使用し、デザートはゼリーは市章カラーで木曾川をイメージしました。



**「癒しと安らぎ環境賞(集中出版主催)」を
受賞しました。**

12月17日

この度、医療情報誌・月刊『集中』を発行する集中出版株式会社主催の「癒しと安らぎの環境フォーラム」において、「癒しと安らぎ環境賞」を受賞致しました。

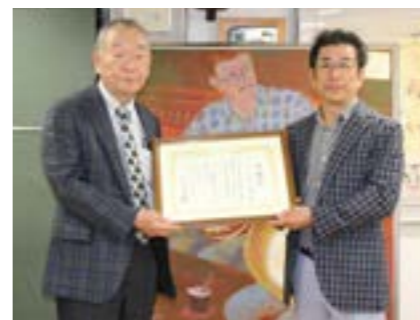
この賞は、癒しの活動を熱心に取り組む医療・福祉施設を対象に顕彰をされています。



Gallery ギャラリー } 絵画等がたくさん飾られているのはご存知ですか？

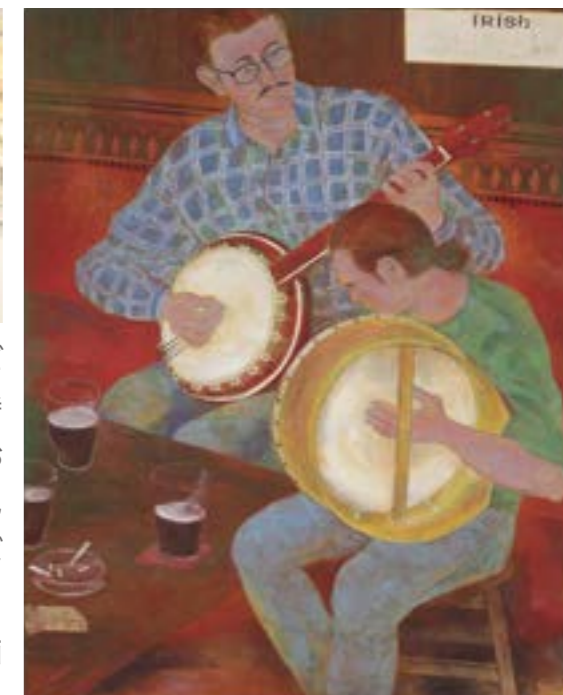
院内には、寄贈いただいた絵画などがたくさん飾られています。Galleryでは、竹田理事長による作品紹介をシリーズで掲載しています。いろいろな作品がありますので、来院の際にはぜひ本物を探して、お楽しみください。

水谷桑丘画伯は桑名市在住の日本画家、1943年桑名市生まれ、長年にわたり日本画の研鑽を積み、新美術協会理事長、晟萌会中部本部代表、桑美



会主宰などの要職を務められています。石取祭や獅子舞などの祭をモチーフとし、民衆のエネルギーや情熱を日本画独特の柔らかな色彩と平面的な構図で描き、高い評価を受けておられます。また伊勢神宮の式年遷宮における行事や祭典を記録する絵画の制作を担当する式年遷宮記録絵師にも選ばれ、自ら詠まれた俳句をもとにした俳画も描かれています。

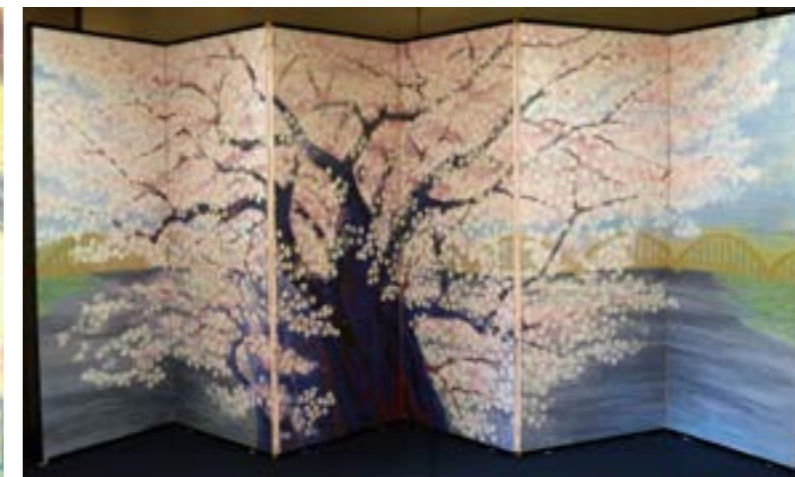
水谷桑丘 「パブ」(アイルランド) 日本画 (入院棟1階ホール)



1993年「彩韻」で文部大臣奨励賞、2000年ネパール王国大使館賞、2011年には桑名市文化功労賞を受賞されています。今回当院へ自作絵画「パブ」をご寄贈いただきました。本画は、画伯が桑名の劇団のアイランド公演へ同行した際、立ち寄ったパブの陽気な人々と音楽に魅せられて描かれたものです。確かな画面構成と鮮度を抑えた色彩の調和が素晴らしい日本画です。水谷氏は、他にも桑名市役所や六華苑、多度大社をはじめとする桑員地区の多数の公共施設や寺社などに自作絵画を寄贈されておられます。



「石取祭」(桑名市役所)



「桑名伊勢大橋桜之図」(六華苑)

※展示期間は令和6年3月中旬頃を予定しております。詳しくは六華苑へお問い合わせください。



一緒に働きませんか?

STAFF募集中

助産師

正規職員・臨時職員

看護師

正規職員

認定看護師

正規職員

薬剤師

正規職員

社会福祉士(医療ソーシャルワーカー)

正規職員

介護福祉士

正規職員・臨時職員

看護助手

臨時職員

医療事務

臨時職員

視能訓練士

臨時職員

臨床工学技士

期限付臨時職員



詳細については
WEBをご覧ください。

お問い合わせ先

桑名市総合医療センター 総務課

TEL: 0594-22-2015